

## 核構造データ・サブワーキング・グループ会合議事録

日 時 昭和 56 年 12 月 17 日 (木) 13:30 ~ 17:30

12 月 18 日 (金) 9:30 ~ 17:00

場 所 原研東海研究所 研究 2 棟 222, 335 室

出席者 神戸(東工大), 喜多尾(放医研), 松本(原研)

### 議 題

#### 1. $^{122}\text{Sb}$ データの文献調査結果(松本)

- (1)  $^{122}\text{Sb}$  の基底状態の EC 崩壊については,  $\gamma$  線が 1 本だけであるが,  $\beta$  崩壊との分岐比が最大の問題である。古い測定データと, 手に入れにくい文献を使って評価せねばならない。
- (2)  $^{122}\text{Sb}$  の基底状態の半減期については, 新旧かなりあるが新しいものは参考データ程度の精度のものが多い。
- (3)  $^{122}\text{Sb}$  の IT 崩壊については, いくつかの新しいデータもあり, 再評価をする。
- (4)  $\text{Sb}(n, \gamma)$  については, 前の NDS に採録されている 72Sh02 は非常に多くの励起状態を丁寧に調べているが, full paper が見当たらない。最近の USSR および Grenoble の共同論文(78Al09)は 920 keV までのレベルについては非常に良いデータを提供してくれる。78Al09 を中心に  $(n, \gamma)$  を作り変える予定であるが 72Sh02 をどう扱うかが問題である。
- (5)  $\gamma$  線を含む反応データは, 目ぼしい新しいデータはない。
- (6)  $(p, n)$ ,  $(p, d)$ ,  $(n, p)$ ,  $(^3\text{He}, t)$  は瀬尾氏の調査によれば, 新しい良いデータはない。

#### 2. $^{122}\text{In}$ の崩壊について

McGill 大学グループが, 10.8 秒と 10.3 秒のアイソマーからの  $\gamma$  線を分離するのに,  $(p, f)$  で作った線源と  $(d, \alpha)$  で作った線源からの  $\gamma$  線の強度比を用いている。そのチェックが喜多尾, 神戸によって行われた。